



～一人一人が輝き、幸せな学校～

佐々木小

令和7年6月26日
新発田市立佐々木小学校
学校だより 第1号



回 覧

元気に！ 爽やかに！

「おはようございます！」「おはよう！」。元気なあいさつの声が飛び交います。先日「小中あいさつ運動」を実施しました。1日目は、佐々木中学校のボランティアの生徒さんが登校前に小学校に来てくれました。懐かしい先輩たちに出会った子どもたち、朝から嬉しさいっぱいの表情です。あいさつの声も普段よりもずっと大きいです。中学生からのあいさつのプレゼント、子どもたちは、たくさんの刺激を受けたようです。先輩たちを見習って、元気なあいさつを続けていってほしいです。

翌日は、企画委員の子どもたちが中学校へ行って、あいさつを交わしてきました。みんなで元気なあいさつを交わす朝、爽やかな1日の始まりです！





太陽と月

校長 金平 弘之郎

先日の夜、外へ出ると、周りがとても明るかったので、思わず空を見上げました。そこには満月ではありませんでしたが、丸みを帯びた大きな月が煌々と輝いていました。その光を見つめ、月明かりに浸っていると、とても心地よくなりました。月の光は人の心を癒してくれます。

太陽と月。私たちを照らす2つの大きな存在です。太陽は、まばゆいくらいに明るく、エネルギーな存在です。人に例えてイメージすれば、元気・明朗・快活・リーダーシップ・積極性・主体性などの言葉があたるでしょうか。私たちが、子どもたちを育てていく上での望ましい姿に当てはまり、その姿を目指していることが多いことでしょう。

一方、月は、太陽の光を受けて、その光を周りに分け与える脇役的な存在です。脇役だとしても、そのイメージを言葉にしてみれば、優しさ・穏やかさ・やすらぎ・安心・フォロワーシップ・協調性・柔軟性など、これも、人として目指したい姿であることは間違いのないでしょう。

太陽と月、両方の資質を手に入れているなら、何て素敵なことでしょう。でも、そんな完璧さを手に入れるのは、かなり難しい気もします。実際は、半分半分の人もいるでしょう。太陽、月のどちらかが多い人もいるでしょう。それが自然の姿ですし、人としての個性です。いろんな人たちがいて、補い合っているからこそ、幸せな社会や幸せな学校がつけられているのです。だって、みんなが太陽だったら灼熱の世界に、みんなが月だったら極寒の世界になるのですから。そんな世界は困ります。それぞれの違いがあるからこそ、私たちの世界が成り立っているのです。「日は夜を知らず月は昼を知らず」ということわざがあります。お互いをよく知らず、知ろうともせず、傷つけ合うようであれば悲しすぎます。とどのつまり、お互いをよく理解し、その違いを尊重すること、すなわち自分と異なる存在を認めることが大切なのです。

学校では、1年生から6年生までがたくさんかわり合い、より友達のことを知る機会を増やしています。友達一人一人のよさに気付けるような働きかけも、授業や行事等をとおして行っています。友達のことをよく知ること、認めること、そんな気持ちが溢れてくれば、世の中のいじめもなくなっていくことでしょう。先日、児童会で「いじめ見逃しゼロ集会」を開催しました。劇のいじめに悩んでいる友達の姿を見て、周りはどうしたらいいのか、1年生から6年生まで一緒になって真剣に考えていました。困っている人の気持ちを汲んで、大人に知らせる、みんなで声をかけるなど、困っている人に寄り添うことが大切だと確認し合いました。そして、みんなが「いじめをしない・見逃さない・許さない」と誓い合いました。120人の子どもたち、人間だから長所も短所ももちろんあります。気の合う合わないもあるでしょう。子ども同士のいざこざやぶつかり合いもあるでしょう。そんな学校という小さな社会ではありますが、どんな場合でも、お互いを認め、尊重しようとする意識が育つよう大人が支えていかなければなりません。

そして、私たち教職員、全校児童一人一人のそれぞれの光り方（よさ）をしっかりと見取り、理解し、そのよさを学級・学校で十分に発揮させ、皆で認め合えるようにしていきます。

1学期もあと一月です。子どもたちが、爽やかで充実した気持ちで夏休みに入っていけるように、7月も職員一同全力で教育活動に取り組んでいきます。

